

1. 調査報告概要表

作成日 平成22年 3月28日

【評価実施概要】

事業所番号	0175200104
法人名	有限会社 エポック
事業所名	グループホーム・ふ・れ・や・か・ひかり館
所在地	網走郡大空町女満別中央37-23 (電話) 0152-74-4321

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成22年3月18日

【情報提供票より】(22年 2月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 6月 16日
ユニット数	1 ユニット
職員数	11 人
利用定員数計	9 人
常勤	1人, 非常勤 10人, 常勤換算 7.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2 階建ての 1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	22,500 円	その他の経費(月額)	共栄費 18,600 円	
敷金	有(円)	有りの場合	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	380 円	昼食	380 円
	夕食	380 円	おやつ	60 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(2月 10日現在)

利用者人数	8名	男性	2名	女性	6名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	0名	要介護4	2名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 81.5歳	最低	94歳	最高	71歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	女満別中央病院・あおぞき歯科
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>当事業所は静かな環境の広い敷地を有した2階建ての1ユニットになっています。居間は明るい陽差しが差し込み、温かく一日を通じて落ち着いた雰囲気の中、利用者はテレビを見たり漫画を読んだり、自分なりの時を過ごされています。利用者のできる事、畑仕事・縫い物・掃除等の発揮できる場面を大事にするとともに、外出機会を楽しみに繋げるなど職員は日々柔軟に対応しています。利用者が輝いて生活をしてもらいたいとの思いが込められた理念「楽・笑・望・光」を掲げ、明るく、楽しく、なごやかな雰囲気になるよう努めています。以前の利用者の家族から事業所へ感謝状が届き、職員全員が評価されたことを励みに頑張っています。</p>

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は多くの職員が外部の研修へ参加できるよう推進するとともに、参加した職員が報告により情報共有に努めています。地域の付き合い、自己評価への取り組み、運営推進会議を活かした取り組み、同業者との交流、災害対策についてはできるところから改善に向け取り組んでいます。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の意義については定例会議の中で話し合われています。自己評価は副施設長・管理者・計画作成担当者の3人で付け合わせをし、一つにまとめています。昨年、外部評価後に管理者の交代があり、結果については閲覧にて情報共有をしています。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:4, 5, 6)</p> <p>昨年、諸事情により開催にいたっておらず、自治会会長・民生委員・町役場福祉課職員・施設長・管理者・計画作成担当者等をメンバーとし、3月31日、運営推進会議の開催を予定しています。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>外部・内部の苦情相談窓口については重要事項説明書に明示し、家族に伝えています。家族の来訪時や状況に応じて電話・メールで連絡・報告するとともに、3月より利用者個々の様子を書いた個別「ひかり館通信」を送付しています。職員は何でも言って貰える関係を築き、日々のケアに活かすように努めています。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入していますが、地域自体が行事等活発でない状況にあります。地域の方が「畑、手伝うよ」と声をかけてくれたり、野菜の差し入れ等もあり、少しずつ交流を深めています。町の商工会行事への参加や氷像づくり、子どもの踊り等のボランティアの訪問もあり、利用者の楽しみとなっています。災害時の協力体制については今後も課題として取り組んでいます。</p>
重点項目④	

(有)NAVIRE

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『楽・笑・望・光』いつも楽しく笑いを絶やさず、この先こうありたいと希望を持ち、光ある生活の主人公になろう！と事業所独自の理念を作り上げ、ホーム内に提示しています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念について会議で話し合い『楽・笑・望・光』の理念が、職員が目指しているケアであると再認識し、毎月目標を決め理念実践に向け日々ケアの質の向上に努めています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入していますが、自治会活動があまり活発でない地域で行事等の参加もありません。日常的に近隣の方と挨拶を交わしたり、畑を耕してくれたり野菜等を差し入れてくれる等の交流があります。また、氷像づくりや子供踊りのボランティアの訪問もあります。	○	利用者が地域と馴染みながら暮らしていけるよう、地域の行事等に積極的に参加する他、グループホームの存在を知ってもらい働きかけも行い、日常的に交流できる関係を築く事を期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義について会議で話し合われています。自己評価は副施設長・管理者・計画作成担当の3人で話し合い作成しています。外部評価について話し合いは行われていませんが、評価について職員が閲覧出来るようになっています。	○	管理者・職員全体で自己評価に取り組み、自分達の提供しているサービス内容を把握し、支援の向上に繋げて行く事を期待します。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前年度は、諸事情により運営推進会議は開催されていません。本年度、年間計画を立て定期開催に向け取り組まれ、3月31日に第1回運営推進会議を予定しています。	○	定期的な運営推進会議の開催と、議事録の配布、また自己評価及び外部評価の結果を公表しながら、委員の助言を得るなど、運営推進会議と評価が一体的に活かされるよう配慮し、サービスの質の向上に期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町担当者とは、地域ケア会議に出席する等、常に連携できる関係になっており、サービスの質の向上に努めています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への報告は、毎月利用者一人ひとりにホームでの様子を書いた『ひかり館通信』と、希望者には金銭預り金のコピーと領収書を請求書と共に送っています。その他の家族は来訪時に金銭預り金を確認しています。また、家族来訪時にも近況報告を行い、緊急時には電話連絡しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、家族来訪時を大切な機会と捉え家族の思いや不安を聞き取るよう努めています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者との関係を大切に、離職等があった場合には利用者のダメージを必要最小限におさえるよう、言葉掛け等に配慮しています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は、会議等を利用し定期的に行いコンプライアンスルールについて等勉強会を実施しています。外部研修希望者のシフト調整を行い研修に参加出来るよう配慮しています。外部研修に参加した職員は、研修報告会を行い職員間で研修の結果を共有しています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、グループホーム協議会主催の管理者会議や勉強会、地域ケア会議等で交流を図っています。	○	管理者は、同業者との交流の機会を得ていますが、今後は職員も同業者との交流を通じて共に学ぶ機会を確保し、一人ひとりのスキルアップを図る取り組みに期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用を希望する場合は、できるだけホームを見学してもらい家族から情報を収集しています。病院から入居する場合は職員が病院に伺う等、利用者が少しでも不安なくサービスの利用開始が出来るよう配慮しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、世話をする、されるという立場ではなく、共に生活する1人として、本当の家族のような関係を大切にしています。畑仕事や縫い物を教えてくれたり、戦争などの昔話や職員の体調を気づかってくれる等お互い支え合う関係が築かれています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報を参考にするとともに、日々の利用者の言葉や表情、利用者同士の会話等からもヒントを得ながら、利用者の意向や思いの把握に努め、職員間で情報を共有しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の思いや要望を把握し、毎月の会議でカンファレンスを行い利用者本位の介護計画の作成に努めています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	会議の中で毎月3名程度のカンファレンスを行い、定期的な介護計画の見直しを行っています。また、利用者の状態が変化した時は、随時見直しをしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の要望に応じ、病院受診・買物等の送迎支援を行っています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望のかかりつけ医に受診出来るよう支援しています。また月2回の訪問看護師による健康チェックを受け、健康面での支援に努めています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に、家族や本人の意向を聞き、重度化や終末期における事業所として最大可能な支援内容を説明しています。また、家族・医師・職員で方針を共有し話し合いを行っています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は常に、利用者を人生の先輩として尊厳を保ち、また、利用者の不安な気持ちを理解しようとする姿勢を大切にして、利用者への話しかけや誇りやプライバシーを損なわない対応を心掛けています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者一人ひとりのペースを大切に、その時の気分や体調を考慮した対応を心がけ、見守りながら支援しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の誕生日には、外食で好きなメニューを選んだり、花見の時に弁当を頼んだり、行事にはちらし寿司などのイベント食にし、ホームの畑で栽培した野菜で調理する等食事が楽しくなる工夫をしています。調理の下準備等、利用者が出来る事を職員の見守りの中行っています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の状況に応じて、概ね週2～3回の入浴支援を行っていますが、利用者の希望によっては、可能な限り柔軟に支援しています。入浴を拒否する利用者には、無理強いすることなく声かけ等工夫し対応しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりが出来ることを見つけ、役割を待って過ごせるよう支援しています。朝の新聞取り、掃除、編物、畑仕事等様々な役割を持たせることで、利用者が楽しみながら行える工夫に努めています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調・希望により、買物や畑仕事、花見等、利用者の楽しみごとや気晴らしの支援を行っています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者・職員は、鍵を掛けることの弊害について理解しており、日中は職員の見守りなどで施錠していません。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急連絡体制、防災マニュアルも作成され、半年に1度業者による設備点検も行っています。消防署の指導を受けての総合避難訓練の実施と、2班に分かれ職員全員が救急救命講習を受講しています。3月予定の運営推進会議には、消防署職員が参加し地域住民の協力体制の重要性を働きかける予定をしています。	○	今後は、運営推進会議で、災害時における地域住民の協力体制について話し合いを重ね、体制づくりに向けて取り組むとともに、夜間等のあらゆる場面を想定した定期的な避難訓練の実施に取り組むことを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取状況を記録し、職員間で情報を共有しています。また、利用者の嚥下等の状態に合わせ、刻みやトロミをつけるなど一人ひとりの健康状態に応じた支援を行っています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は明るく、ゆったりとしており、それぞれが思い思いに過ごせる場所を確保しています。季節により、雛壇などを飾ったり、ホールから畑や花壇を眺める等利用者が楽しめるよう工夫しています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が使い慣れた家具や写真、仏壇など、出来る限り、それまで暮らしていた様子を再現して生活できるよう、居心地よく暮らせる支援をしています。		